

令和元年度

第1回 中海・宍道湖・大山圏域市長会総合戦略推進委員会

各委員意見のまとめ

1. 総合戦略に係る施策の検証・評価について

- 市長会での取り組みによる成果・効果を意識した分析が必要。
- 数字上の評価以外の部分(医工連携窓口の設置など)も考慮した評価が必要。
- 他と違うことに絞って事業を行うことで評価もわかりやすくなる。
- 各市がどういう恩恵があったのか分かる指標が必要。
- 市長会の位置づけ、どういう事業を何のためにするのかしっかり組み立てる必要がある。
- インバウンドに関しては、リスク管理の意味も含め、韓国、ロシアに限らず、多様性をもって進めていく必要がある。
- インド事業の費用対効果は適当なのかどうか。
- 外国人人材の確保については、今後、広くアジア諸国にも目を向けるべき。

2. 次期総合戦略の策定について

- 市長会ならではの特化したわかりやすい事業を主眼に考えるべき。
- 市長会の意義が分かるような事業を掲げるべき。
- がらりと変えていくこと、変えていかざるをえないことの整理を。
- 計画策定の過程において、できるだけ多くの人の話を聞く機会を持っていただきたい。
- まだ圏域の存在の認識不足。知ってもらうための周知事業、魅力を発信していけるような事業を考えていただきたい。
- 人手不足、若者の地元定着を掘り下げて考えるべき。県境を越えた高校生のインターンシップなどの就労支援の取り組みがあればよい。
- 観光政策は5年の計画期間にかかわらず、絶えず実施していくもの。
- 出雲空港を利用したビジネス交流などに繋がる動きを盛り込めないか。
- 出雲空港の国内線の内需を広げていく取り組み、PRが必要。
- インバウンド対策としてサイクリングコースを大山から出雲に繋げないか。
- 8の字ルートをサイクリングという切り口でスポットを当てて環境整備するのもおもしろい。
- 結婚支援は広域で取り組むことは有効。
- Uターン・Iターンについて各市の特徴をいかし連携した取り組みができないか。
- 知財創造教育の普及、あるいは特徴ある教育として取り組んでいくことも考えられる。
- 他の市にも各市の良さ、楽しみ方などをPRしてはどうか。